



そのカラフルな包装紙やおまけつきのソーセージまで店頭を賑わしていました。原材料・添加物・販売方法などに問題はないか、また、安全であるかなどの不安や疑問の声が上がるとなると、私たちメンバーはこのことをテーマとして取り組むことにしました。まず問題点を浮き彫りにするための実態調査を行い、県生活科学センターに添加物の分析依頼もしました。それらを踏まえてメーカーとの対話集会をする中で、やっとメーカー一社と生活学校との間で、品質基準契約書を取り交わし、安全安心な無塩せきウインナーの共同開発をすることができ、晴れて学校給食にも使用してもらうことができました。40年過ぎた現在も共同購入を継続しています。厳しい対話や調査を重ねることで実現することができた成果の一つです。このことを機に私たちメンバーは「やればできる!」と大きな自信と喜びを得ることができました。

## 環境問題やゴミ問題への取り組み

時代の流れとともに社会構造も変化していく中、平成の時代に入ると地球的規模で環境問題が取り上げられ、ゴミの問題が浮上してきました。過剰包装の追放とレジ袋の使用削減運動、マイバッグ持参運動は、

県内の行政、企業、消費者団体との話し合いを重ねた結果、レジ袋の有料化に向けて動きました。全国生活学校連絡協議会の運動として実施した「レジ袋減らし隊」の取り組みにはメンバーみんなが汗を流しました。

平成3年のある時、メンバーから「最近ゴミの中に発泡スチロールやペットボトルが目立って増えてきている。燃やされたり埋め立てられたりしているのは問題ではないか」と声が上がりました。このことを機に、ゴミの減量と、リサイクルの必要性を感じて、発泡スチロールトレイとペットボトルを統一テーマとして取り上げることに



平成30年度生活学校運動研究集会～本音で語ろう生活学校～

なりました。スーパーや家庭での実態調査や視察研修、学習会を踏まえて活動は、トレイの使用自粛とともに量販店での店頭回収を求めた対話集会、小学校や公民館を拠点とした回収運動へと拡大していきました。福井県内の量販店における「店頭回収」を実現したことは福井県生活学校活動の大きな成果であると胸を張って言えることです。

平成4年、このころペットボトルは、使い捨てにされていた。かさばるだけで空気を運んでいるようなものでリサイクルしてもコストがかかるだけと業者は言いました。

資源の乏しい日本であるにもかかわらず使い捨てと処理方法に疑問を持ったメンバーは、25回のペットボトルの回収キャンペーンを重ね、リサイクルの必要性を行政や企業に訴え続けました。そんな中、平成7年の容器包装リサイクル法施行に伴って行政回収が一気に進みました。長くて暗いトンネルの出口がやっと見えて「継続は力なり」「動けば変わる・変えられる」と感じることができました。

## 「地球環境を守る」を メインテーマに

近年、地球温暖化による環境の変化を

日々の生活の中でより身近に実感するようになってきました。

平成20年度より「地球環境を守る」をメインテーマに、CO<sub>2</sub>削減に向けて節電や3R運動を推進してきました。また小学生を対象に環境標語を募集し、目めくり環境カレンダーを作成しました。学校や公民館などへ配布して、一人一人の自覚と実践に向けた啓発活動を行ってきました。平成25年度からはアルミ付紙パックや菓子袋などの廃棄物が、アルミとプラスチックに分離され、アルミからは「電気」が、プラスチックからは「ガスやA重油」が精製され、新しいエネルギーとして有効利用できることを知り、そのリサイクルの道筋を探ってきました。富山大学教授川口清司氏の講演は、「地球のエネルギー資源は有限である。『地球環境を守る』ためにはゴミを資源として活用する循環型社会形成が必要である」とのお話でした。

これまでの取り組みの中で循環型社会構築のためには、アルミ付廃棄物の再商品化への法制化と表示の統一性が重要であるとのメンバーの声が上がり、平成27年10月より、容器包装リサイクル法の見直しに関する請願書の準備を進めてきました。平成28年3月13日開催の第47回「あすの地域社会を築く女性のつどい」において、福井新

聞特別論説委員の北島三男氏より「福井発信でガンバレ!!」と強く背中を押され、地域や全国に向け署名活動を展開することとなりました。

#### 〔現状〕

①アルミ付容器包装材はメーカーとして商品の劣化防止と品質保持のためにとっても有効とのこと、今後ますます増えてくると予想される。

②現在のところアルミ付紙パックやアルミ付プラスチックはほとんど焼却処分されている。

③プラスチック処理工場や紙回収業者は、アルミ付廃棄物を再分別しており、非常に手間がかかっている。

#### 〔リサイクルの道筋〕

リサイクルされれば「アルミ」と「プラスチック」と「紙」に分離され、紙はトイレットペーパーに、アルミからは「水素や電気」が、プラスチックからは「ガスやA重油」が精製され、新しいエネルギーとして有効活用できる。また焼却処分するより87パーセントのCO<sub>2</sub>削減効果を得ることができる。

#### 〔課題解決に向けて〕

循環型社会構築のためには、

①容器包装リサイクル法に定める再商品化義務の対象として、アルミ付容器包装を

特化し付け加える。

②アルミを使用したすべての容器包装にアルミの材質表示を義務づける。

課題解決には、この2点が最重要と考えます。

平成28年度は容器包装リサイクル法の見直しを求めするための署名活動を実施しました。県内はもとより全国生活学校連絡協議会の協力を得て、2406名もの署名が集まり、平成29年3月11日、地元国会議員に請願書を提出することができました。29年度も6月21日、東京で開催された全国生活学校連絡協議会総会の席上で、各県代表の



消費者いきいきフォーラム

## 福井県生活学校 50 年のあゆみ

福井県生活学校では、くらしの中で改善しなければならない問題を取り上げ、調査研究、学習会を行いながら、これらに関わる関係者と対話集会を重ね、成果を挙げてきました。

あすの地域社会を築く婦人のつどい		
第1回	クリスマスケーキを考える大会	S43. 12. 6
第2回	醤油を考える大会	S44. 10. 1
第3回	農業を考える大会	S45. 12. 5
第4回	ゴミを考える大会	S46. 11. 19
第5回	医療を考える大会	S47. 11. 17
第6回	洗剤を考える大会	S48. 11. 19
第7回	家庭電気製品を考える大会	S49. 11. 14
第8回	パンを考える大会	S50. 11. 13
第9回	ハム、ソーセージを考える大会	S51. 11. 16
第10回	清涼飲料水を考える大会	S52. 11. 15
第11回	スナック菓子を考える大会	S55. 3. 5
第12回	省資源・省エネルギーを考える大会	S56. 3. 9
第13回	空き缶リサイクルを考える大会	S56. 12. 6
第14回	子どものおやつを考える大会	S57. 11. 28
第15回	ハンバーグ、ミートボールを考える大会	S58. 11. 27
第16回	牛乳を考える大会	S59. 10. 28
第17回	漬物を考える大会	S60. 12. 1
第18回	即席めんを考える大会	S62. 3. 1
第19回	即席カレーのルーを考える大会	S62. 11. 15
第20回	食品の安全と輸入食品についてⅠ	H1. 2. 19
第21回	食品の安全と輸入食品についてⅡ	H2. 3. 4
第22回	食品の安全と輸入食品についてⅢ	H3. 3. 4
第23回	発泡スチロールトレイを考える大会	H4. 2. 9
第24回	発泡スチロールトレイとペットボトルを考える大会Ⅰ	H5. 2. 21
第25回	発泡スチロールトレイとペットボトルを考える大会Ⅱ	H5. 12. 12
第26回	ペットボトルを考えるⅢ—安全性とリサイクル	H6. 12. 11

あすの地域社会を築く女性のつどい		
第27回	ペットボトルを考えるⅣ—環境保全とリサイクル社会をめざして	H8. 2. 25
第28回	ペットボトルを考えるⅤ—環境保全とリサイクル社会をめざして	H9. 3. 1
第29回	大豆製品を考えるⅠ—加工食品の安全性	H10. 3. 1
第30回	食と環境を考える—安全な大豆製品を求めてⅡ、ペットボトルのリサイクルⅥ	H11. 3. 14
第31回	食と環境を考える—安全な大豆製品とその加工食品を求めてⅢ	H12. 3. 5
第32回	食と環境を考える—遺伝子組み換え表示義務化はスタートするが	H3. 2. 25
第33回	食と環境を考える—遺伝子組み換え表示義務化はスタートしたが	H14. 2. 24
第34回	子どもの食環境を考える	H15. 3. 16
第35回	子どもの食環境を考えるⅡ—学校給食に地場産の食材を	H16. 2. 29
第36回	子どもの食環境を考えるⅢ—地域に根ざした食育をすすめる	H17. 2. 27
第37回	子どもの食環境を考えるⅣ—今、求められる食育	H18. 3. 5
第38回	子どもの食環境を考えるⅤ—朝ごはんは子どもが育つ原動力	H19. 3. 4
第39回	子どもの食環境を考えるⅥ—食育が子どもの未来を創る	H20. 2. 10
福井県生活学校連絡協議会創立40周年記念大会		
第40回	地球環境を守るⅠ—「わたしはレジ袋いりません」と言えるひとりでず	H21. 3. 1
第41回	地球環境を守るⅡ—暮らしの中で今、私たちができるCO2削減	H22. 2. 28
第42回	地球環境を守るⅢ—地域に広げるCO2削減に向けて	H23. 3. 6
第43回	地球環境を守るⅣ—「もったいない」が生きる社会づくり	H24. 3. 4
第44回	地球環境を守るⅤ—減らそうCO2「もったいない」生きる社会づくり	H25. 3. 10
第45回	地球環境を守るⅥ—ゴミ減量化、減らそうCO2～廃アルミから新エネルギー再生を考える～	H26. 3. 9
第46回	地球環境を守るⅦ—ゴミ減量化、減らそうCO2～廃アルミから新エネルギー再生を考える2～	H27. 3. 8
第47回	地球環境を守るⅧ—ゴミ減量化、減らそうCO2～廃アルミのリサイクルをすすめるために～	H28. 3. 13
第48回	地球環境を守るⅨ—ゴミ減量化、減らそうCO2～廃アルミから新エネルギー再生を考える～	H29. 3. 19
第49回	地球環境を守るⅩ—ゴミ減量化、減らそうCO2～廃アルミのリサイクルをすすめるために～	H30. 3. 11

① 容器包装リサイクル法の見直しを求める署名活動を継続する。  
 ② 県や各生活学校が所属している市町への

方に請願書署名協力をお願いをしました。「地球環境を守る」を統一テーマに掲げてから10年目となる29年度は、第1回福井県生活学校代表者会において、具体的活動内容が承認されました。  
 ③ 環境への周知徹底を図る為、リーフレットを作成する。  
 ④ 県内9生活学校はそれぞれの地域において、環境活動を展開する。  
 活動の歴史が50年間連続と続いてきた原動力は、身の回りのちよつとした疑問の解決にひたむきに取り組む姿勢と正義心以外

の何ものでもないと思います。これからも私たち福井県生活学校のメンバーは、手を取り合って「美しい地球環境を未来に遺す」ために一人一人の意識改革と3Rの実践はもとより、地域の人たちと連携し、ゴミを資源として利活用できる社会形成の構築を目指して頑張っていきたいと考えます。